

【事例1】経営支援・事業再生の事例

取組の概要	
事業者	株式会社半田工業所（鉄骨工事）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・現経営者の半田社長は、2010年3月に当時の社長であった祖父が急逝したことにより、急遽社長に就任した（当時33歳）こともあり、経営管理に関する知識が乏しく採算管理が不十分で赤字が続き、金融機関と相談して返済条件の緩和（条件変更）を行った。しかしながら、実質的な改善が進まないことから改めて静岡県信用保証協会から専門家派遣の利用を提案した。 ・紹介した専門家は、熱意と厳しい指導で定評のある中小企業診断士の桑迫氏であり、メインバンクの富士信金、信用保証協会も同席のもとで合計6回の診断が行われた。その中で、半田社長がきちんと参加しなかった場面もあり、その時は中小企業診断士が半田社長を叱咤した。 ・その後、半田社長は気持ちを改め、メインバンクの支援のもとで経営改善に取り組み、採算管理に関する意識を高め、従業員に対する指導を徹底していくこととなる。問題点は、経営陣に経営管理の意識に乏しく、利益率が極めて低かったことであった（工事毎の採算性が把握できていないこと、受注獲得優先であり適正価格で受注できていないこと、取引先に対する単価交渉が不足していること等）。 ・まずは収益構造の仕組みを知ることから着手した。その際、半田社長自身に過年度の決算実績をまとめさせることで、財務状況を理解させ、特に以下の計数管理の意識を高めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・仕入れる鉄骨の相場変動に対応した積算に基づく見積り ・取引先に対する単価交渉（一定以下の利益率の受注は受けないこと） ・月次で収益管理の実施 ・営業エリアの拡大 ・診断終了から1年を迎えた2014年12月の決算報告において、8期ぶりの当期利益を計上した。その後も利益計上が続いており、まずは条件変更からの脱却することを目指してモニタリング、フォローアップを行っている。 ・半田社長からは、「専門家派遣で指導を受けたことで、意識が変わった」、「1番の改善要因は、自身の意識が変わったこと」とのこと。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>半田社長</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同社外観</p> </div> </div>